

ジュニア部門 〈母へのおもいに対する作文〉

中高校生部門 入選作文

母からの愛情の大切さ

坂 下 華 梨

最近ニュースで親から子供に対しての虐待の話題をよく聞きます。産まれたばかりの幼児を木の箱の中に入れたり、水や食事をあげなかったり、自分の体で産んだ子に対してそのお母さんはどんな気持ちで、虐待を繰り返すのかなと、いつも疑問に思います。虐待を受け亡くなっている子、心に深い傷を負った子、母からの愛情を感じる事が出来ない人達がいる中で私はどれだけ幸せなのかなと、ニュースを見て思いました。

私の家族は七人家族です。でも、私だけが家族の中で血がつながっていません。私を産んでくれた母とはいろいろな理由で一緒に住んでいませんが、「お母さん」と呼べる人はちゃんといえます。血がつながっていても私の母です。でも、その人を母だと思えるまでにはとても時間がかかったし、私を産んでくれた母を許すのも時間がかかりました。でも、血がつながっていない私を本当の子供のように厳しく、たっぷりの愛情で育ててくれた母の姿を見て、私は変わりました。私を周りの友達と違わなく育ててくれていきます。たくさん怒られて、たくさんケンカもして、いろんな問題にぶつかってきました。それを何度も何度も繰り返して、やっとそれが本当の母からの愛情なんだと分かりました。いつも私から逃げずに接してくれて、それがずっと母親として当たり前前回の愛情すら思っていました。でも虐待を受けている子は、その当たり前前の愛情すらももらえていないんだと思うと、自分の事を可愛想だと思っていた自分をとてもバカらしく思いました。母からいろんな面で愛情をもらっているのに、友達と少し違うからといって私は可愛想な人間なんだと思いませんでした。友達が少し違うからといって私は可愛想な人間なんだと思いませんでした。友達が少し違うからといって私は可愛想な人間なんだと思いませんでした。

私を産んでくれた母親も、私に虐待はしなくてもいろいろあり疑問に思う事もたくさんあります。それでもずっと許さないのは私を産んでくれた母に対してするべき事ではないと気付きました。私が今とても楽しく過ごしているのは、育ててくれる母のおかげだけど、私自身が

なければ楽しいという感情も感じる事が出来ませんでした。だから今の私があるのは二人の母親のおかげです。確かに私は周りの友達と多少は違います。私の学校の公民の授業で、先生が「あなたが家族と言われて思い浮かぶ言葉？」と質問した時、私のクラスメイトは「血がつながっている。」と答えました。それを聞いた時、そう答えるのも無理はないなと思いました。でも私はそれが一番ではないと思います。母親や家族の一員と一緒にいる時に寂しい、悲しい、辛い、そう感じた時にはいつも近くで安心させてくれる。楽しい、面白い、嬉しい、そう感じた時にはいつもとなりには母や家族がいる。ただそれだけで家族と呼んではいいと思います。「お母さん」って呼んでいいと思います。だから友達や他の人と違っていても、血がつながっていても、私の母である事には代わりないし、私が母の娘である事には代わりありません。周りの友達と同じだけ厳しく育てられ、同じだけ愛情をもらっています。だからこそ今私の母との関係があります。私自身がこうやって思えるまでにすごい時間がかかりました。母の事だけではなく、友達や勉強などの悩みにたくさんぶつかった時も、やっぱり母が支えてくれました。母に八つ当たりした時も、私から逃げずに接してくれました。私もこんなにたくさん大変な事があったからこそその私だし、母でもあるから、簡単に信頼を築けたり出来ないと思うけど、どんなに時間がかかってもいいから、次は私が母を幸せにしてあげたいと思いました。